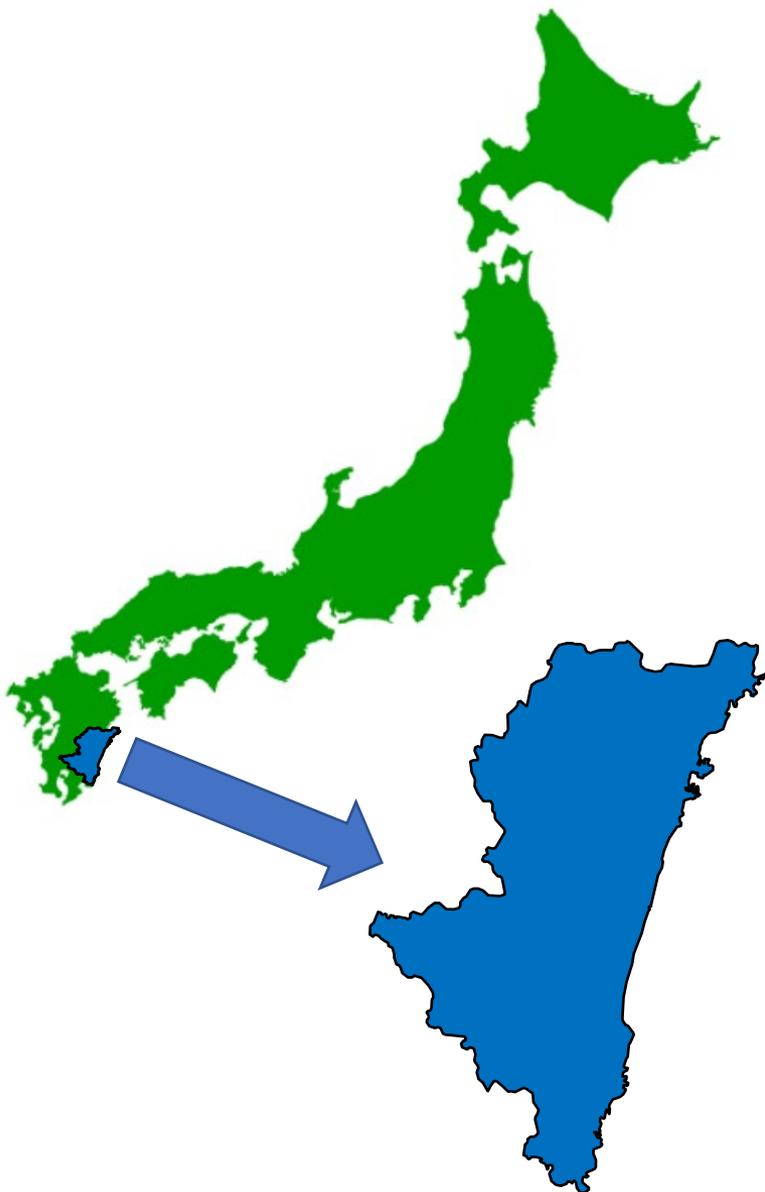


宮崎県の 2050年ゼロカーボン社会づくり

宮崎県環境森林課

湯浅 伸弘

1 本県の環境



- 平均気温→17.7度（全国第3位）
- 日照時間→2,122時間（全国第6位）
- 降水量→2,626mm（全国第2位）

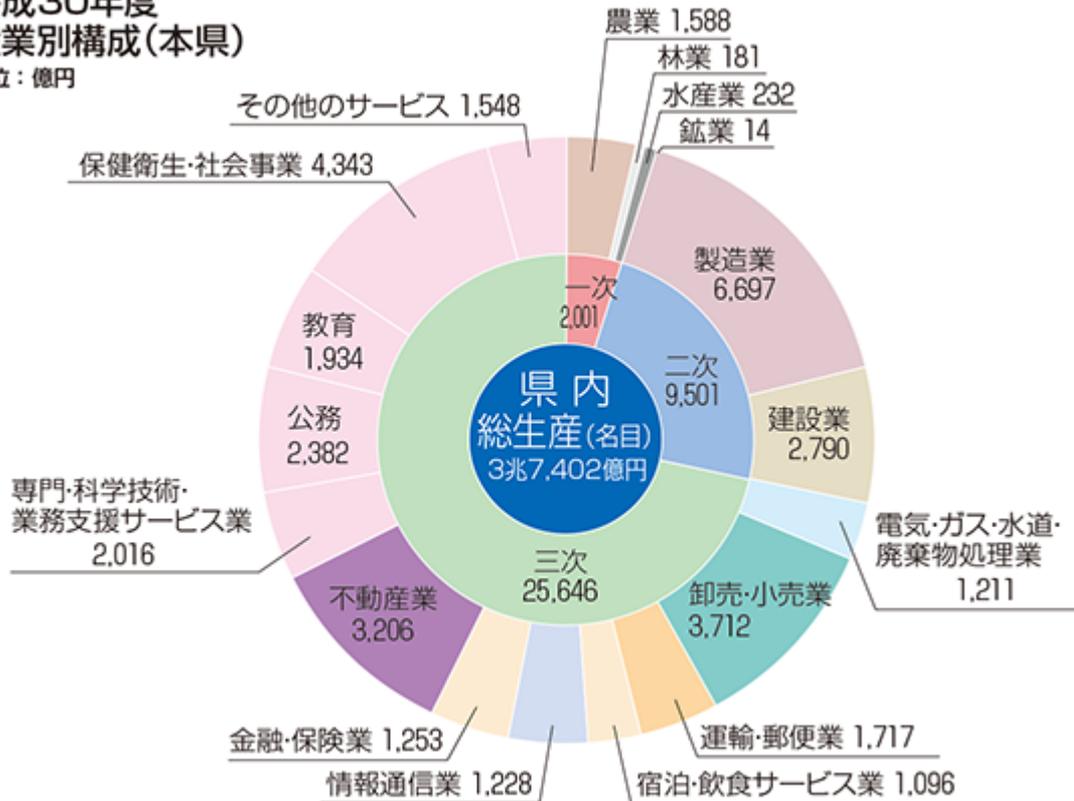
- 太陽熱温水器普及率
→16.4%（全国第1位）
- 太陽光発電システム普及率
→8.0%（全国第3位）
- 水力発電実績
→全国第9位（西日本第1位）

地域的エネルギー自給率（※）
→第3位（48.3%）
※ NPO法人環境エネルギー政策研究所

2 本県の産業構造

- 第一次産業の比率が5.3%と、全国平均（1.2%）より高い。
- そのため、温室効果ガス排出面では、農業や畜産業からの排出割合が高くなる一方、森林等による吸収量も排出量に占める比率が高い。

平成30年度
産業別構成(本県)
単位：億円

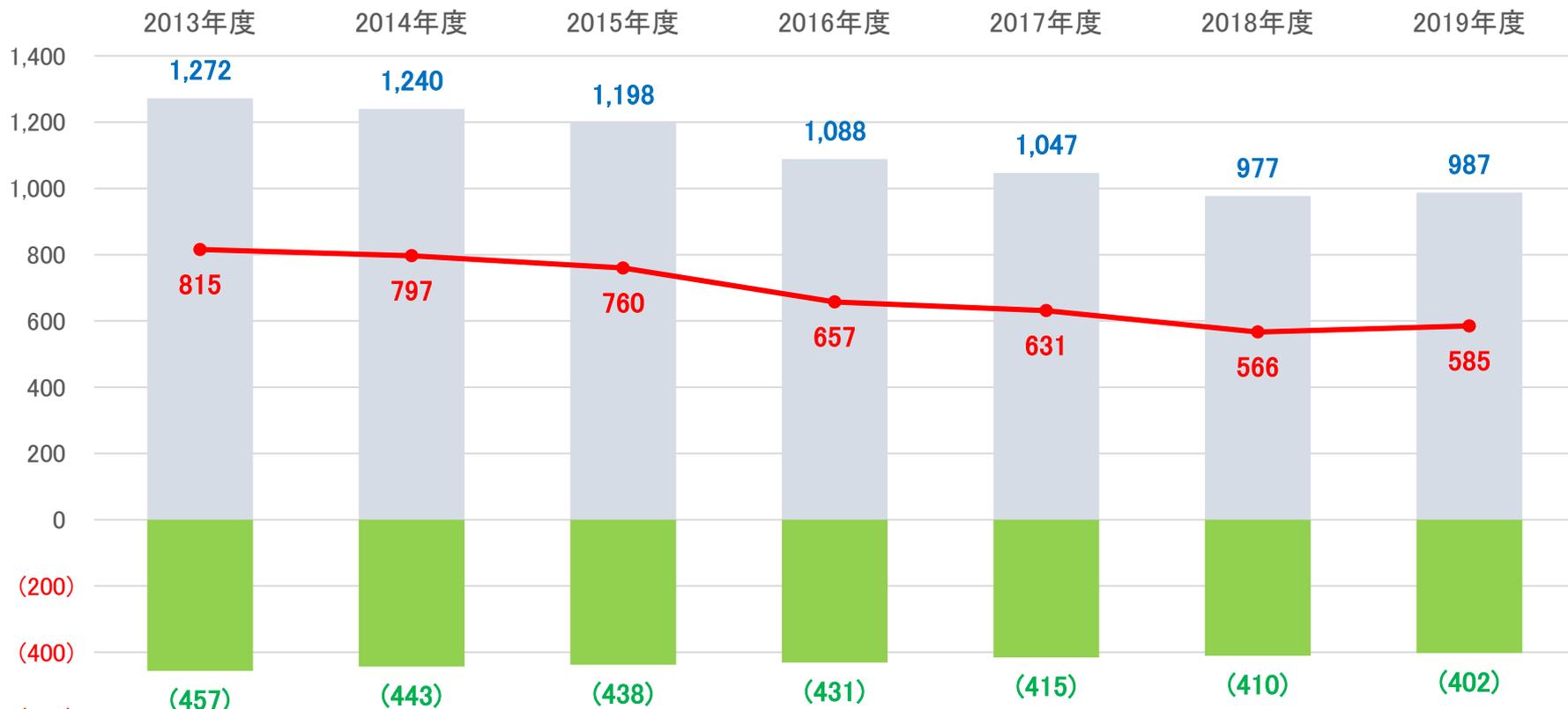


- 農業産出額
→ 全国第5位（3,396億円）
- 肉用牛の飼養頭数
→ 全国第3位（250,300頭）
- 豚の飼養頭数
→ 全国第2位（835,700頭）
- ブロイラーの飼養羽数
→ 全国第1位（28,236千羽）

3 温室効果ガス排出量の推移

- 2019年度（令和元年度）における温室効果ガスの総排出量は、987万トン（対前年度比+1.0%）。また、森林等の吸収量は402万トン。
- 「総排出量」から「吸収量」を引いた、実質の排出量は585万トンと、2013年度（平成25年度）比で△28.3%

単位：万t-CO₂

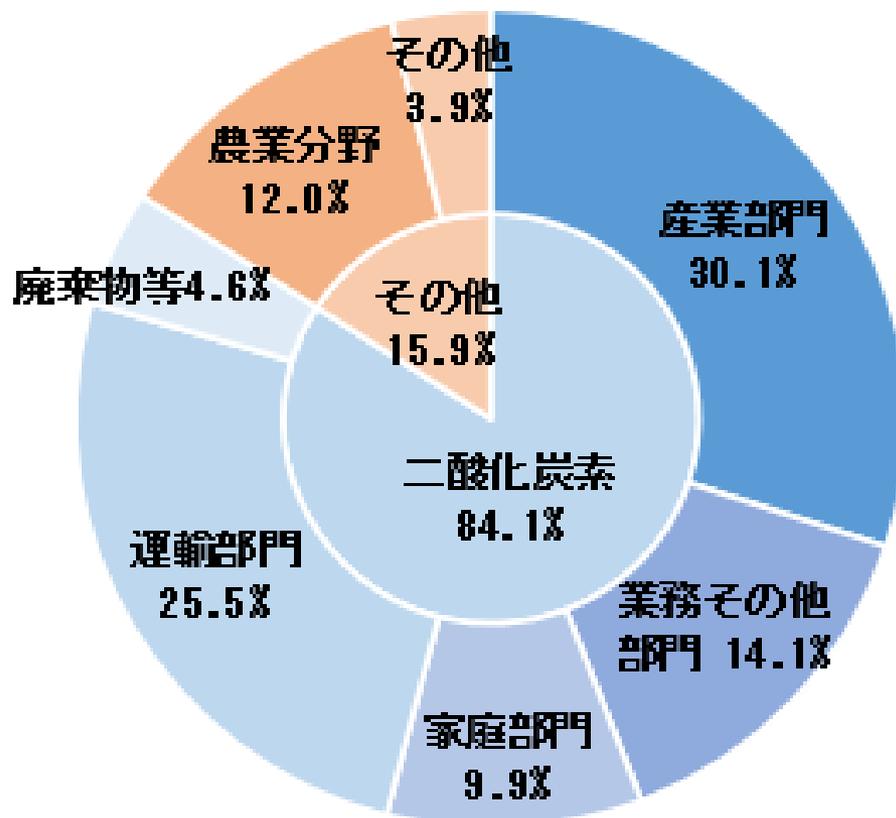


4 部門別排出量

- 部門別では、産業部門の排出量が最も多く、次いで、運輸部門、業務その他部門、家庭部門。
- 基準年度（2013年度）からの削減率は、家庭部門が最も高い。

〔単位：万t-CO₂〕

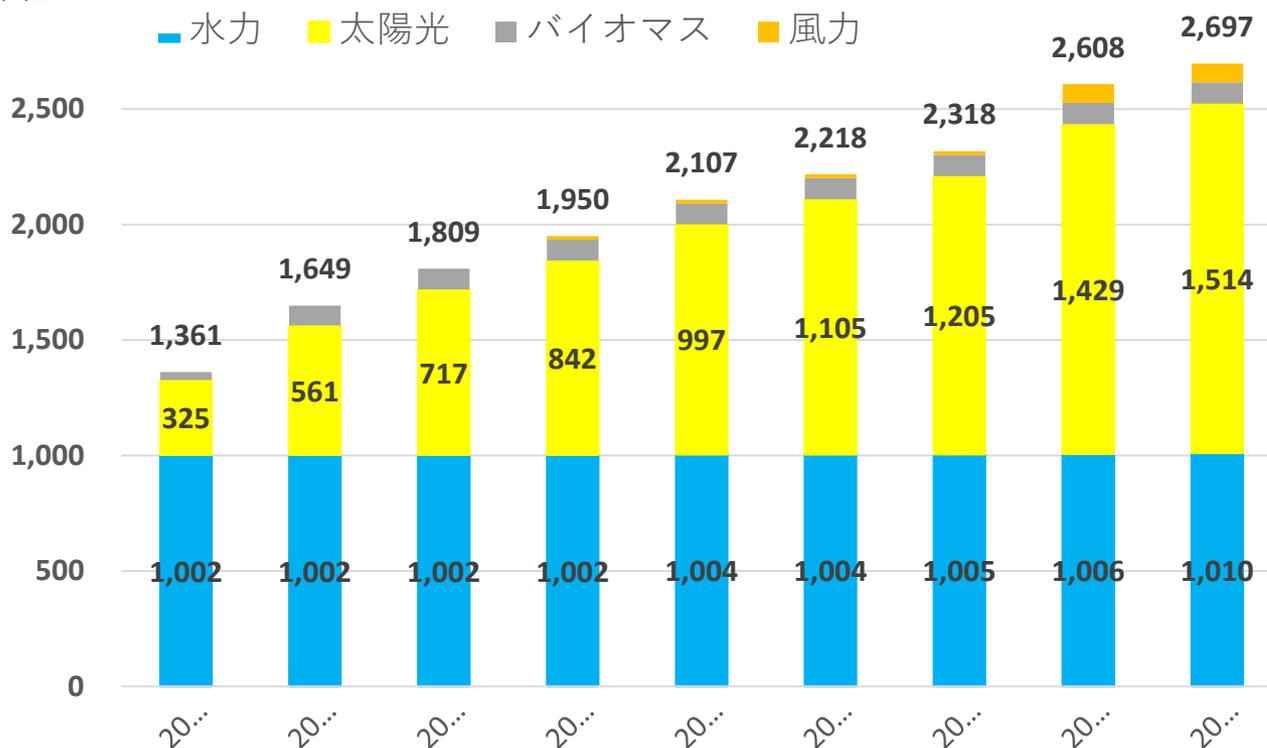
区分	排出量	2013→2019削減率
二酸化炭素	817.0	▲25.4%
産業部門	296.7	▲28.1%
製造業	243.0	▲28.0%
建設業・鉱業	7.4	▲45.4%
農林水産業	46.3	▲24.6%
運輸部門	251.8	▲8.8%
業務その他部門	138.8	▲29.5%
家庭部門	98.1	▲48.7%
廃棄物等	45.2	+24.0%
その他ガス	169.9	▲1.4%
農業分野	118.5	▲1.3%
その他	38.0	▲1.7%
計	987.2	▲22.4%



5 再生可能エネルギーの導入状況

- 本県の2021年度（令和3年度）の再生可能エネルギーの導入状況は、2,697MW（対前年度比+3%）。
- 内訳としては、太陽光発電が1,514MW（56%）、水力が1,010MW（37%）。

単位：MW



宮崎ソーラーウェイ



串間風力発電所

6 バイオマス発電の活用

- 県内では、1 2カ所の木質バイオマス発電所や3基の鶏ふん燃焼発電施設、2基の牛ふん尿発酵発電施設が稼働中。

【鶏ふん：みやざきバイオマス
リサイクル発電所】



【牛ふん：本部農業】



【木質：中国木材バイオマス発電所】

- 県内のブロイラー農家から発生する鶏ふんのほぼ全量を発電に利用
- 発酵した後の残りは、液肥として農業に利用

7 「2050年ゼロカーボン社会づくり」に向けて

- 県として「2050年二酸化炭素排出実質ゼロ」表明（R3.3）
- 令和3年に策定した第四次環境基本計画の重点プロジェクトとして、温室効果ガス排出削減の取組と、森林等の吸収量維持の取組を併せて推進

